

「国際総トン数」について

1. 昭和 57 年 7 月 18 日以降に起工された船舶又は同日以降に特定修繕を行った船舶
総トン数計算書謄本の JCD-2 (2 ページ目) の「法第 4 条第 2 項の規定の例により算定した数値 (t)」欄に示された値が「国際総トン数」となります。

《総トン数計算書の例》

○表紙

JCD-1

総トン数計算書 (長さ 24 メートル以上、未滿の船舶)						
新	種類	船舶番号	船籍港	船名	用途	
改 ()	汽船	1234〇〇	東京都	第18〇〇丸	貨物船	
船質		鋼	閉	閉囲場所の合計容積	968.234	
(中略)						
深さ		7.50	メートル	所	その他の場所の容積	0.000
総トン数 200 ト						
(以下略)						

○2 ページ目

JCD-2 NAME OF SHIP 汽船 第18〇〇丸 船舶番号 1234〇〇

総トン数		
閉囲場所の合計容積から除外場所の合計容積を控除した数値	V	1211.310 m ³
規則第 9 条に定める係数	K ₁	
0.2+0.02log ₁₀ V	0.2617	
法第 4 条第 2 項の規定の例により算定した数値	t	国際総トン数
K ₁ ・V	316	
規則第 35 条に定める係数	k ₁	
(以下略)		

2. 上記以外の船舶
引渡し後の登録国において新たに「国際総トン数」の算定を行う必要があります。